

ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャの思い受け継ぎ世界へ 世界青年のつどい成功めざす全国交流ニュース

[2006年7月17日 No.16]

発行: 第2回世界青年のつどい準備委員会 電話03 5842 6035 FAX03 5842 6033
URL http://www.geocities.jp/youth_against_nukes/index_jp.html Eメール youth_against_nukes@yahoo.co.jp

ポスター、ビラ貼りで活動を宣伝 三重

「自分にできることやりたい」 - 広島実行委員会が原爆症認定集団訴訟を学習

8か所に貼らせてもらう



写真: 店頭やイベント情報コーナーに貼ったビラ

三重 7月13日午後からバス会のメンバー2名で原水爆禁止世界大会バスツアー参加者募集ポスターを貼らせてもらうために回り、駅ビル内のCDショップ、雑貨屋、市民活動センターなど8か所に貼らせてもらうことができました。「かっこいいポスターね!」といった良い反応もありました。

市民活動センター「市民のイベント情報コーナー」にビラを貼っていると、センターのボランティアの人が近寄ってきて、色々質問されました。三重県にも被爆者の人はたくさんいて今も苦しんでいる人がいることを言うと、とても驚いていました。そして、「あなた達はとてもいいことをしている。ぜひ小規模でもいいからここで被爆者の人をお話をお話聞く企画などをしてほしい」と言ってくれました。

今まで13のショップや市民活動センターにお願いに回りました。断られたところもありますが、三重の青年がこういう活動をしていると知ってもらっただけでも前進かなという思いです。現在大

学にもポスター貼ってとお願い中です。また、7月23日には駅前では原爆パネルやギターを使った歌声や折鶴・署名の訴えをする予定です。

(バンクーバー世界平和フォーラムにも参加した今井杏菜さん)

原爆症認定集団訴訟を学習

広島 昨年、600人が被爆者訪問を行い、65人の被爆者が被爆体験を語った広島で7月5日、現地青年実行委員会が結成されました。被爆者相談所の渡辺力人さんから原爆症認定集団訴訟の話聞いた参加者からは、「自分を恥ずかしく思った。実際に被爆された方たちが、こんなにもがんばっているのに、広島に住み、これから社会を作っていくべき私が、何も行動していないことが...。被爆61年、今までの60年分の思いと行動を受け継ぎ、私も行動していきたい」「今でも原爆による放射線の影響で発病して苦しんでいる人たちがたくさんいることを知り、びっくりした。あらためて放射線の恐ろしさを感じ、そのことをあまり私たちに知らせてない日本政府にも腹がたつ。原爆投下から61年たつ今でも苦しんでいる人がいることを、まわりの青年達にも伝えていかなければと思った。今日の集会に参加して、平和について考えることができよかった。自分にできることで協力していきたいと思う」などの感想が寄せられました。現地では、地域の人々の協力も得ながら昨年の1.5倍の700人で70人の被爆者訪問を成功させようと準備を進めています。7月22日には原爆ドーム前でピースキャンドルを行う予定です。